

## ブドウ ‘巨峰’ ウイルス無毒樹に対する芽かきと 夏季せん定が樹体と果粒形質に及ぼす影響

森田 昭 (長崎県果樹試験場)

Akira MORITA : Effect of the Disbudding and Summer Pruning  
on Berry Produce of Virus Free Grapevine ‘Kyoho’

ブドウ ‘巨峰’ ウイルス無毒樹は保毒樹に比べ、樹勢が旺盛で果粒肥大期も新しゅう伸長が著しいことから果粒への養分の転流が少なく、果粒肥大を阻害されている。そこで、新しゅう葉への養分転流の無駄を少なくするために、萌芽期の芽かき、6月や9月の夏季せん定などの処理による果粒肥大法、連年処理による樹体への影響を検討した。

### 1. 材料および方法

1) 供試樹 露地栽培の浜崎系 ‘巨峰’ ウイルス無毒挿木の5年生樹 (有袋栽培) 2樹を用いた。

2) 試験区 萌芽期芽かき区、6月せん定区、9月せん定区と無処理区の4区を設定した。1樹に4処理2反復した。満開日は5月12日であった。

3) 処理方法 萌芽期の芽かきは上芽および先端芽を主体に1996年～’98年に毎年4月に4本/m<sup>2</sup>になるように除去した。6月せん定区は1996年～’98年に毎年6月に全新しゅうの10%を、主として、長さ70cm以上の未着果房の新しゅうを基部から夏季せん定した。9月せん定は1996年～’97年に毎年9月に全新しゅうの15%を、主として長さ200cm以上の新しゅうを基部から夏季せん定した。冬季せん定は通常通り行った。

4) 調査項目 萌芽率、有核果粒率、1粒重、果皮色、糖度、酸含量、開花直前の枝長および収穫直後の枝長を測定した。

### 2. 結果および考察

萌芽期の芽かきは6月、9月夏季せん定処理区や無処理区に比べ萌芽率は高く、新しゅう長は長く、果粒は大きく、果皮色は優れ、糖度は高く、酸含量は低い。6月の夏季せん定処理区は無処理区に比べ、有核果粒率は高いが萌芽率は低く、果粒は小さく、果皮色は劣り、糖度は低く、酸含量は高い。9月の夏季せん定処理区は無処理区に比べ萌芽率、有核果粒率は高いが新しゅう長、1粒重、果皮色、糖度は同程度である。以上の結果から6月の夏季せん定を連年行くと果粒形質が低下することから、ウイルス無毒樹の樹体管理は芽かき主体で9月の夏季せん定を補完的に行うのがよいと思われる。

第1表 芽かきおよび新しゅうの夏季せん定をした場合の果粒形質 (1996年)

方法	時期	回数	1粒重 果皮色* 糖度 酸含量			
			(g)			(g/100ml)
夏季剪定	6月	1	11.8	8.2	18.5	0.45
夏季剪定	9月	0				
芽かき	4月	1	13.8	9.8	19.0	0.42
無処理			12.8	9.3	18.6	0.46

注) \*カラーチャート指数

第2表 芽かきおよび新しゅうの夏季せん定を2年連続処理した場合の樹体および果粒形質 (1997年)

方法	時期	回数	萌芽率 (%)	有核果粒率 (%)	新しゅう長 (cm)			1粒重 (g)	果皮色	糖度	酸含量 (g/100ml)
					開花前①	収穫直後②	②-①				
夏季剪定	6月	2	90.6	28.6	38.2	46.0	7.8	10.3	9.4	18.9	0.29
夏季剪定	9月	1	89.3	27.6	48.6	71.2	22.6	11.8	9.6	19.2	0.30
芽かき	4月	2	90.1	28.2	54.6	92.3	37.7	12.4	9.4	19.3	0.30
無処理			83.0	24.8	44.2	63.0	18.8	11.0	9.3	19.1	0.29

第3表 芽かきおよび新しゅうの夏季せん定を3年連続処理した場合の樹体および果粒形質 (1998年)

方法	時期	回数	萌芽率 (%)	有核果粒率 (%)	新しゅう長 (cm)			1粒重 (g)	果皮色	糖度	酸含量 (g/100ml)
					開花前①	収穫直後②	②-①				
夏季剪定	6月	3	60.0	29.0	20.3	55.0	24.7	11.3	8.2	18.0	0.45
夏季剪定	9月	2	84.3	28.9	37.5	68.3	30.8	11.8	9.2	18.5	0.31
芽かき	4月	3	90.6	27.1	59.0	107.3	48.3	13.1	9.4	19.3	0.30
無処理			77.2	23.3	48.0	88.3	40.3	12.1	9.1	18.6	0.39